

地域で子育て！循環する地域社会と より良い子育て環境づくり

岡山県岡山市中区 特定非営利活動法人まんなか



岡山市旭竜子育て広場開設のきっかけ コミュニティハウスでの様子

町内会を巻き込んだ地域で
子育てするための取り組みについて

NPO法人まんなかは現在、令和2年に閉園した岡山市立旭竜幼稚園（以後、旧旭竜幼稚園とする）の跡地を利用し、子どもを中心とした誰もが集える居場所・広場の開催をしている。団体設立のきっかけとなった出来事は、この幼稚園が近所の保育園と合併し、岡山市の認定こども園ができるため、令和2年に閉園となったことだ。開園中の幼稚園では、園が終わった午後には園庭開放があり地域の幼児親子や小学生らが利用していた。自然と異年齢が交流できる居場所となっていた。加えて、私たちの住む地域は、近くに乳幼児を連れて遊びに行く場所が少なく、天候に左右

されず室内で遊べる場所を求めて、車で20分かけて隣の市の児童館まで遊びに行っていた。コロナ禍前は岡山市から1日約60人もの利用がある施設で、遊び場を求めて隣の市まで行っているのに、どうして岡山市内に利用しやすい施設がないのか、旧旭竜幼稚園を隣の児童館のように利用はできないのか。そんな想いに共感した主婦仲間が団体を立ち上げるようになった。

出産すると、家で赤ちゃんはずっと2人きりで、社会との接点が急激に減る。岡山市内の9割は単身世帯と核家族であり、居住年数が浅い家庭も多く、近くに相談ができたり、頼れる人がいないお母さんも多い。広場に来ることで、ご近所の顔見知りができたり、子育て中のスタッフと悩みを共有でき、育児へ



の不安が減り、子どもと接する喜びが増す。お母さんお父さんの気持ちを一瞬に話せる場所があることが、虐待防止や、問題の早期発見の役割を担っているの言うまでもない。

そんな想いで始めたまんなかだが、立ち上げ当初は地域団体と連携ができなかった。まさに居住年数の浅い、地域と関わりが少なかった私たちが団体を作り「旧旭竜幼稚園を子ども

もが遊べる場所として存続してほしい」と子育て世代の気持ちを発信し始めたわけだが、信頼関係もない町内会との連携が急にできるはずがない。岡山市に考えを訴えに行ったが、ほとんど門前払いだった。しかしそんな中でも、令和

元年11月より地域のコミュニティハウスで子育て広場の活動を始めることになった。同時に、町内の活動に積極的に参加して、地域の声にも耳を傾けるようにした。そこで感じたことは、地域の大人たちも子どもたちを見守りたいという思いがあり、手を差し伸べたいと関わり方を模索しているということだ。子どもに対して、自分たちが知らないだけで、たくさんさんの取り組みがあった。ならば、旧旭竜幼稚園を子どもをまんなかに置いた多世代交流の拠点にしてはどうか、という考えに至り、岡山市にも積極的に働きかけた。岡山市



園舎前で集合写真 みんなで草取り



旧旭竜幼稚園園舎と園庭を活用してマルシェ

からはまず、幼稚園を貸すにも法人格が必要という回答だったので、任意団体をNPO法人化した。

コミュニティハウスで開いていた子育て広場がきっかけとなり、令和3年4月より岡山市子育て広場13番目の旭竜子育て広場が旧旭竜幼稚園にて開設されることになった。週一回暫定的ではあるが、閉園した幼稚園を利用して乳幼児親子が集まれるようになった。そして、令和3年7月から令和4年2月と令和4年7月から令和5年2月まで、地元の連合町内会主催「旭竜子どもの居場所」(備前県民



旧旭竜幼稚園にて夏休み プール

局事業)を開設し、私たちは企画運営に携わった。地域の方の見守りのもと、小学生が宿題をしたり、遊んだりできるようになっていっている。他に、地元商店に新店を出店していただき、幼稚園にてマルシェを開催したり、「地域ぐるみ会議」を開き、旧幼稚園がどのようにしてほしいかアンケートをとった。(旭竜小学校に協力いただいた)

そして、令和4年度からは、NPO法人まんなかが岡山市に使用料を支払い、旧幼稚園を利用することができるようになった。現在は週に2回程度旧旭竜幼稚園を利用し、子どもたちを中心にした、誰もが集える無料の広場を開催している。地域の方が草刈りなど施設の整備や、子どもたちの見守り、用品の寄付など私たちの活動を気にしてくださるようになった。

また、活動を始めて、子育て支援に携わりたいと思っている個人や団体同士のつながりが必要だと感じ、高島公民館と共同主催する「ネットワークを作りたい!つながる子育てについて考えてみませんか?」にて情報共有や知識向上のための講習などを行っている(令和4年度より任意団体として独立)。

今後は、産前から地域と関わりをもち、出産後に孤立しないための講座や広場を充実させていきたい。乳幼児親子の広場でつながりを持ち、小学生になって遊びにきて、中学生・



旧旭竜幼稚園遊戯室にてクリスマス会

高校生になってボランティアとして関わる。親になってまた子どもを遊ばせに來られる。孫を連れて気軽に訪れることができる、あそこに行けば誰かがいる。そんな循環型の地域施設にしていきたい。子どもたちを見守る姿勢が社会全体に広がっていけばと考えている。(特定非営利活動法人まんなか

副理事長 西田佳名子